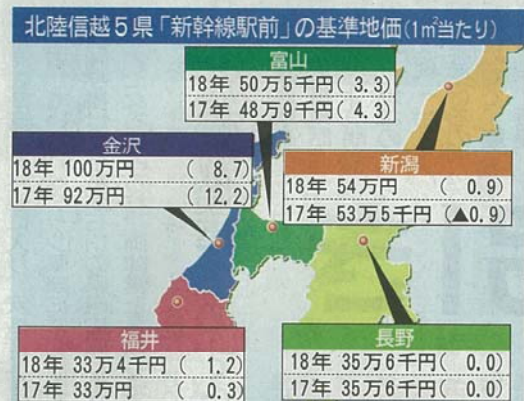


金沢続伸、富山の2倍

北陸信越5県「新幹線駅前」比較



北陸信越5県の県庁所在地にある「新幹線駅前」の基準地価は、金沢が1平方メートル当たり100万円の大台に乗り、富山の2倍、福井の3倍となる価格でトップとなった。2けたの上昇率を記録した前年より勢いは鈍ったものの、5県の中では最も高い水準だった。富山は新潟との価格差を3万5千円に縮めた。新潟は駅付近の立体交差事業の進展に伴い、10年ぶりに上昇に転じた。

新潟 10年ぶり前年超え

新潟(金沢市本町2丁目)は2012年以降、7年連続の上昇となった。15〜17年はいずれも2けたの伸びを記録していたが、今年が8・7%と4年ぶりに10%台を割り込んだ。

ただ、引き続き土地需要は旺盛で、市内の不動産関係者によると、足元ではオフィス需給がひっ迫し、駅周辺は満室に近い状態となっている。

金沢に次いで価格が高かった新潟(新潟市中央区大通1丁目)は09年から9年間続いた下落が止まった。価格は前年より0・9%高い54万円。新潟県用地

土地利用課によると、今年4月、駅付近の立体交差事業が第1期の開業を迎え、全面開業する21年度に向けて期待が高まっている。

新潟に次ぐ3番目の富山(富山市桜町2丁目)は1平方メートル当たりの価格が50万5千円だった。上昇率は前年の4・3%から3・3%となり、3年連続で縮小した。

地価調査富山分科会代表幹事の朝倉秀朗不動産鑑定士は「富山駅は南口と北口を地上階で結ぶ南北

富山県内 商業地26年ぶり上昇

富山県内の変動率では、商業地の県平均は前年比プラス0・1%となり、1992年以来、26年ぶりに上昇に転じた。住宅地は前年のマイナス0・5%から同0・3%と下落幅

平均変動率0・1%に

が縮小した。富山市は北陸新幹線開業後に観光客が増えた富山駅周辺で地価が上がるなど新幹線効果が広がり、全用途平均は前年の0・3%から0・6%に上昇幅が拡大した。

県内の全226地点のうち、上昇した地点は38地点で、前年の19地点から倍増した。全用途県平均は0・2%の下落で、93年から26年連続のマイナスとなったが、下落幅は前年の0・3%下落より縮小した。

商業地の最高価格は、伸び率が3・3%となった富山市桜町2丁目の1平方メートル当たり50万5千円で、27年連続トップだった。住宅地は3・7%伸びた同市舟橋南町の11万2千円が最高価格で、14年連続でトップとなった。

北陸経済

とつかが焦点となる。

加賀のガス業者 電力小売り参入

21日から

プロパンガス販売のマル井(加賀市)は18日、電力の小売り事業に参入すると発表した。21日から「まるいでんき」の名称で低圧・高圧向けに販売を始める。同社によると、北陸三県に本社を置く企業で、電力、ガスともに小売り事業者の認可を取得するのは初めて。

電気料金は、家族4人の平均的な電気使用量の家庭

次期理事長に 仲泉氏を選出

金沢JIC

金沢青年会議所(JIC)は18日、2019年度理事長予定者に仲泉拓郎氏(37)を選出した。任期は来年1月から1年間となる。



仲泉氏は麻布大獣医学部、ワシントン州立大卒で、2002年に「MEDICAL TR ADE」(現寿薬品)を創業した。金沢JICでは16年度に国際開発室長を務め、17年度は日本JICに出向した。18年度は専務理事に就

金沢青年会議所(JIC)は18日、2019年度理事長予定者に仲泉拓郎氏(37)を選出した。任期は来年1月から1年間となる。